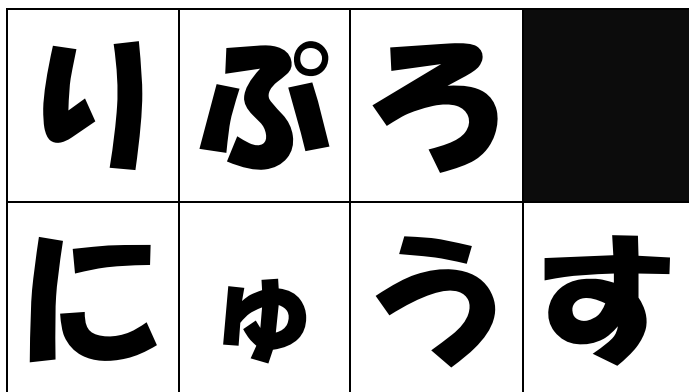




2017. 11 月号 Vol. 48

編集・発行／リプロネットみやぎ

CONTENTS

- 大学生に“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ”
を伝えていきたい
- 「性の健康」基礎講座 2017 第 1 回開催報告
- 若者のための市民活動体験 2017 実施報告

大学生に“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ”を伝えていきたい

リプロネットみやぎ代表 村口喜代

1994 年リプロダクティブ・ヘルス/ライツが国連・国際人口開発カイロ会議で採択された。その 4 年後の 1998 年にリプロネットみやぎが発足し、もはや 19 年になる。リプロダクティブ・ヘルス/ライツはどのくらい浸透してきたのか。

今回大学生を対象として、基礎講座・第 1 回「避妊と性感染症のお話し」、引き続いて若者の市民活動体験を実施した。基礎講座では、実施後のアンケート「初めて聞いたこと」でリプロダクティブ・ヘルス/ライツと書いた学生が 2 名、若者の市民活動体験ではほぼ全員がリプロダクティブ・ヘルス/ライツを知らなかった。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの最も重要な柱は、「性の自己決定権」と「性の人権」である。このことを啓発するのは容易なことではない。長い時間をかけ身体化されてきたともいえる意識にメスを入れることでもある。性は関係性のテーマであるがゆえに容易ではない。どんな知識、考えも相手との間で行使されなければ意味がない。基礎講座ではプロローグで「彼がピル服用に反対し妊娠中絶した大学生のケース」を提示し、何とか気づいてもらう工夫をした。学生は貴重な学びの時間を過ごし、終了後のアンケートでほぼ全員が「大変良かった」と答えていたことに、まずは安堵したが……。若者の市民活動体験では、最後に「(お話しの大学生カップルの彼女について)人として扱われていないと感じた」との感想を述べた女子学生がいた。まさに「性是人権」そのことに気づいたのです。とても嬉しかった。



リプロダクティブ・ヘルス/ライツは、人の生き方すべてに関わるとても幅広く、あまりに深遠な概念である。わたしたち自身もまだ学びの途上にあることを承知しながらも、これからの日本を担い、牽引していこう大学生・若者たちにリプロダクティブ・ヘルス/ライツ伝えていきたいと願う。

〔リプロ「性の健康」基礎講座 2017〕が始まりました

第1回 大学生のための性感染症と避妊のお話し

～感染しない、望まない妊娠をしないために～



2017年9月26日(火)／アゼリアヒルズ 18F 大塚製薬会議室

講師:村口喜代表

参加人数:47人(一般38人、会員9人)

昨年度開催した連続講座の同テーマのアンケートに、「若い世代にもっと聞いてほしい内容」という声があり、今回は大学生を中心に参加を呼びかけた結果、東北福祉大学・東北生活文化大学の学生31人、一般7人、役員9人、計47人(女性85%)が参加しました。

■「性の健康」は、自分が主体的に、責任をもって守っていくもの

今回の講座では、テーマの解説に入る前提として、様々な性に関わる問題解決の柱となる「性の健康」について、クリニックで実際にあった「避妊のためのピルの服用を彼が認めてくれない」という若い男女の具体的な事例を示して、その関係性のあり方から、自分のからだ・性を守るための自己決定についての問題点を投げかけました。

様々な性感染症も避妊の仕方、パートナーとの関係性のあり方が根底にあります。予防や解決するための身に付く知識はネットのなかにはありません。人間対人間の関係のなかで考え、学んでいくことが、「性の健康」を守っていくためにとても重要なことです。

感染症や避妊の仕方など各項目の解説のなかでも、この「性の健康」「関係性」について繰り返しふれながら、その重要性への理解を促していきました。

【アンケート回答から】

- 自分のパートナーや、将来教師になった時に子どもたちに伝えたい内容だった。(19歳・女性)
- 性の自己決定権、性の権利を中心に性感染症と避妊について多くのデータを使って解説していただき、大変勉強になった。(19歳・女性)
- ピルについての認識が180度変わった。(21歳・女性)
- 日本という国は他の国々と比べて、性に対して目を向けようとしない国なのかと思った。性と向き合っていく姿勢を作り上げていくことが大切だと思う。(18歳・女性)
- 国連の会議で、「性と生殖に関する健康と権利」というものが提唱されたこと、性について自己決定権などの権利があることを初めて知った。(19歳・男性)
- 膣外射精は避妊したことにならないと知った。性感染症は人と人とのやりとりがないとどんどん広がるので、話し合いは大事だと思う。(19歳・男性)
- 感染症や望まない妊娠をしないために、男性にすべてを任せるのではなく、女性も自分のからだは自分で守ることを忘れてはいけないと思った。(19歳・女性)

「若者のための市民活動体験 2017」に参加・実施

この事業は仙台市男女共同参画財団の企画事業として、大学生を対象に市民活動への理解を深めてもらう目的で 1999 年にスタートしました。リプロネットみやぎは第1回から参加し、今回で 9 回目となります。

今年度からは財団が抜け、実質的な運営を担当していた「特定非営利法人イコールネット仙台」が独自事業として引き継ぐことになりました。それに伴い、これまで主催者が担っていた会場の確保及び利用料負担、申し込み受付など学生に対する窓口対応は、参加する市民団体が各自行うことになることから、リプロネットみやぎではこれまでの経過を踏まえ、役員会で討議。その意義に賛同することで参加を決定しました。事業全体では 18 グループ・団体から 43 体験が参加しています。

■「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」への理解を深めてもらう

体験活動は10月12日(木)、エル・パーク仙台・セミナーホールを会場に開催しました。時間は大学の授業時間を考慮して19:00～21:00。参加学生のうち男性は、東北福祉大学2人、東北学院大学2人、東北生活文化大学1人の5人、女性は仙台白百合女子大学4人でした。

男女それぞれ1グループずつに分かれ、役員がファシリテーターとして加わり、ワークシートを使った話し合いを行いました。

ワークシートは、男女の交際スタートからセックス、避妊、妊娠、中絶、別れの一連のケースを示したもので、その内容は現代の若者の状況にはそぐわない部分もあるかもしれないが、性について語る場を設ける、性を通してパートナーとの関係性のあり方を考えてもらうことが重要との判断から従来のものを採用しました。

学生たちは話し合いの後、一人一人が感想を述べました。総括として代表からは、「身体的に男女は平等ではない」「好きという感情と性は別次元のもの」「性は人権である」との指摘があり、そのことを踏まえて相手を尊重することの大切さが語られました。

【参加者の感想・アンケート回答から】

◆女子学生

- ワークシートの女性は人として扱われていないと思った。
- 男性の意見が聞けて、貴重な体験だった。
- 性について知らない、知識が曖昧だったことを自覚して、これから少しでも理解していこうと思った。
- 男女は身体的に役割が異なり、対等ではないという代表の言葉に共感した。



◆男子学生

- 性についての知識不足を痛感した。性を現実的なこととして学んでいない。
- 女性の身体的な立場の弱さを知った。
- 他の人に意見が聞けてよかった。
- 自身の今後のあり方を考えさせられた。

報告会を開催します

変わったこと、変わらないこと

結果報告

みやぎの女性と男性 からだと性のホンネ！2017

それぞれ100名に聞きました

【アンケート結果報告】・・・村口喜代

トーク
&トーク

■コメンテーター

村瀬 幸浩（元一橋大学講師・日本思春期学会名誉会員）
村口 喜代（リプロネットみやぎ代表）
室谷 浩二（仙台市民）
伊藤 美華（仙台市民）
すげの直子（リプロネットみやぎ会員）

■会場のみなさま

日時：2017年12月2日（土）15:00～17:30
会場：アゼリアヒルズ17F 株式会社大塚製薬会議室
仙台市宮城野区榴岡 3-4-1



資料準備のため、参加ご希望の方はFAX、eメールもしくはHPからお申込みください。

HP: <http://repro236.wixsite.com/repronet-miyagi> 「リプロネットみやぎ」で検索

【申込先】 FAX:022-292-0167 e-mail:repro@muraguchikiyo-wclinic.or.jp
「お名前」「電話番号」「e-mailアドレス」「年齢」「参加希望人数」をご記入ください

これまでの調査・報告活動

2008年2月／女性100名へのアンケート結果報告会開催
2011年2月／男性100名へのアンケート結果報告会開催
2012年1月／女性と男性の「からだと性のホンネ」報告会開催

主催 リプロネットみやぎ（リプロダクティブヘルス/ライツネットワークみやぎ）

リプロネットみやぎ事務局

FAX:022-292-0167 e-mail:repro@muraguchikiyo-wclinic.or.jp